

シラバス：教科に関する科目

授業科目名： 健康増進科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 出口 洋二 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ 人間集団の抱える健康問題を解決するための重要な科学的手段である疫学の考え方とライフステージに応じた各種保健施策や環境衛生施策の背景について修得する。</p>			
<p>授業の概要 看護師が医療現場で患者や家族の達成可能な健康レベルの到達を支援するためには、地域社会において提供される公衆衛生サービスの内容とその科学的根拠を十分理解し、最も適したサービスを助言できる必要がある。 内容は、包括的医療と公衆衛生活動の特徴、疫学の考え方と研究方法、集団の健康指標と保健統計の意義、健康施策の現状と課題（母子保健・学校保健・産業保健・老人保健）、環境施策の現状と課題（食品衛生・空気・水・廃棄物）などである。</p>			
<p>授業計画（SBO） 第1回：国民の生存権と社会保障制度および公衆衛生の意義について説明できる 第2回：予防医学と包括的医療の概念を理解し、公衆衛生活動の特徴を説明できる 第3回：公衆衛生活動の科学的基盤となる疫学の考え方と主要な研究方法を説明できる 第4回：公衆衛生活動の羅針盤となる保健統計の意義を理解し、重要な集団の健康指標を説明できる 第5回：ライフステージに応じた健康施策の現状と課題1（母子保健・学校保健）を説明できる 第6回：ライフステージに応じた健康施策の現状と課題2（産業保健・老人保健）を説明できる 第7回：地域環境衛生施策の現状と課題1（公害防止と環境保全）を説明できる 第8回：地域環境衛生施策の現状と課題2（食品衛生と廃棄物）を説明できる</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト 小山洋・辻一郎編 『シンプル衛生公衆衛生学』 南江堂</p>			
<p>参考書・参考資料等 厚生労働統計協会編 『国民衛生の動向』 日本疫学会監修 『はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～』改訂第2版 南江堂</p>			
<p>学生に対する評価 授業で取り上げる重要な『Key Words 50』を簡潔な文章で説明する予・復習課題を課し、5回に分けて提出させる。 評価点＝ 試験成績（100点）×提出課題完成率（説明できたKey Words / 50 Key Words）</p>			

シラバス：教科に関する科目

授業科目名： 健康増進科学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 出口 洋二 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学概念・定義について理解する。</li> <li>2. 疫学的手法について理解する。</li> <li>3. 疫学の基盤となる保健統計について理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>概要：「健康増進科学」で教授した人間集団の抱える健康問題を解決するための科学的手段として、疫学の考え方や方法を用い、健康や環境に関する現状や課題を保健統計の手法を用いて演習形式で理解する。</p>			
<p>授業計画（SBO）</p> <p>第1回：感染症対策・母子保健・産業保健・地域成人保健・老人保健・地域環境衛生対策（食品・廃棄物）の6班を編成し、学生が自ら調査するための日程調整を班ごとに行う。</p> <p>第2回：各班の調査予定項目の紹介とその科学的背景を発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。</p> <p>第3回：各班の調査予定項目の紹介とその科学的背景を発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。</p> <p>第4回：各班で調査した重要な健康施策の現状について発表する。</p> <p>第5回：各班で調査した重要な健康施策の現状について発表する。</p> <p>第6回：各班で調査した重要な健康施策の課題について発表する。</p> <p>第7回：各班で調査した重要な健康施策の課題について発表する。</p> <p>第8回：各班で考察した健康施策の改善策を発表する。</p> <p>第9回：各班で考察した健康施策の改善策を発表する。</p> <p>第10回：各班の調査した重要な健康施策について簡潔な文章表現によるレポート原稿を作成し、教員へ提出する。</p> <p>第11回：各班の調査した重要な健康施策について簡潔な文章表現によるレポート原稿を作成し、教員へ提出する。</p> <p>第12回：各班の調査した重要な健康施策について簡潔な文章表現によるレポート原稿を作成し、教員へ提出する。</p> <p>第13回：科学的なレポートの作成をめざして原稿を修正する</p> <p>第14回：各自全班のレポートに簡潔な要旨を作成する。</p> <p>第15回：他班のレポートを指定された評価項目に基づき採点する。</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>参考書・参考資料等 鈴木庄亮・久道茂監修：シンプル衛生公衆衛生学 南江堂</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価の方法</li> </ol> <p>①定期試験（筆記試験）70% ②レポート課題 30%</p>			

授業科目名： 環境と健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 出口 洋二 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ 「環境」をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、医療技術に活用できる能力を修得する。</p>			
<p>授業の概要 環境の変化は人々の健康に影響し、社会的な問題となっている。また、人口動態の変化や疾病構造の変化も社会的な問題となっている。人々の健康な生活を支援する者として、これらに関する知識をもち広い視野で医療技術を考えなければならない。 内容は、生活環境と健康、教育環境と健康、労働環境と健康、人口動態と健康指標、疾病予防と健康管理、健康と衛生行政等である。</p>			
<p>授業計画 第1回：包括的医療と公衆性活動の特徴 第2回：疫学の考え方と研究方法 第3回：集団の健康指標と保健統計の意義 第4回：健康施策の現状と課題（1）母子保健・学校保健 第5回：健康施策の現状と課題（2）産業保健・老人保健 第6回：環境施策の現状と課題（1）食品衛生 第7回：環境施策の現状と課題（2）空気・水・廃棄物 第8回：総まとめ 定期試験</p>			
<p>テキスト ・シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等 ・国民衛生の動向（厚生統計協会）</p>			
<p>学生に対する評価  評価点＝ 筆記試験（100点、持込なし）× 小課題の提出率</p>			

授業科目名： 健康教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：出口洋二 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 公衆衛生活動は国民の生存権（健康で文化的な最低限度の生活を営む権利）を確保するための社会保障制度の根幹を担っており、自主的健康管理行動を誘導継続するために健康教育の重要性を理解し、健康支援をする専門職として必要な、第1次～第2次予防による医学的健康管理方法の実際を修得することを目標とする。			
<b>授業の概要</b>			
<b>授業計画</b> 第1回 公衆衛生活動における健康教育の意と予防医学的健康管理方法の考え方を理解する。 第2～8回 ライフステージに応じた第1～2次予防による健康管理方法の実際を学ぶ。 第2回 母子保健 ①母性の健康管理方法の実際 第3回 母子保健 ②乳幼児の健康管理方法の実際 第4回 産業保健① 働く人々の健康管理方法の実際 第5回 産業保健② 働く人々の作業管理方法の実際 第6回 産業保健③ 働く人々の作業環境管理の実際 第7回 地域成人(自営業者等)の健康管理方法の実際 第8回 高齢者の健康管理方法の実際			
<b>テキスト</b> ・ 小山洋・辻一郎編 シンプル公衆衛生学（南江堂） 配布プリント			
<b>参考書・参考資料</b> ・ 国民衛生の動向			
<b>学生に対する評価</b> キーワードの簡潔な説明文の提出（20点）＋ 試験（80点）			

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南 桂子、五十嵐利恵 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	学校保健		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 児童生徒の心身の健康状態を理解し健康の保持増進を図るために、学校生活や学習活動に必要な健康や安全について、その問題や予防等の対策について学ぶ。また、学校保健の実践が児童生徒の発達に対して果たす役割を理解する。さらに、養護教諭の役割、専門性、関連する教職員の役割など具体的な活動等について学習する。			
<b>授業の概要</b> 児童生徒の心身の健康状態を理解し健康の保持増進を図るために、学校生活や学習活動に必要な健康や安全について、その問題や予防等の対策について学ぶ。また、学校保健の実践が児童生徒の発達に対して果たす役割を理解する。さらに、養護教諭の役割、専門性、関連する教職員の役割など具体的な活動等について学習する。			
<b>授業計画</b> 第1回：学校保健の構造を理解する。 学校保健の目的・学校保健にかかわる教職員の役割 第2回：養護教諭の職務内容と変遷を理解する。 養護教諭の歴史・社会の変遷に伴う職務へのニーズ・法改正による養護教諭の職務の変化等 第3回：健康診断について理解する。 健康診断の意義・進め方・留意点・健康診断の沿革 第4回：健康診断の結果の活用について理解する。 健康診断結果の分析・健康課題の設定 第5回：健康診断の結果の分析から望ましい指導内容を検討する。 健康診断の結果の分析から保健指導内容を検討し作成する 第6回：学校環境衛生検査について理解する。 学校環境衛生検査の項目と基準・検査の実際と管理・改善 第7回：学校安全活動について理解する。 学校における学校安全活動の目的・社会の変化による内容の変遷・意義 第8回：学校で多いけがや事故について理解する。 学校で多いけがや事故の種類・応急手当の方法・校内での養護教諭の役割 第9回：健康相談活動（ヘルスカウンセリング）について理解する。 健康相談活動（ヘルスカウンセリング）の進め方と実際 第10回：健康教育の進め方。 現代的健康課題・学校における健康教育のあり方 第11回：健康教育の実際① 性教育・喫煙・禁酒・薬物乱用防止教育・新たな感染症などについての指導案の作成 第12回：健康教育の実際② 性教育・喫煙・禁酒・薬物乱用防止教育・新たな感染症などについての指導案の作成 第13回：保健室経営について理解する。 学校保健管理センターとしての機能・心の居場所としての機能・健康教育推進の場としての機能			

第14回：学校組織と学校保健組織活動について理解する。

校務分掌における保健組織・学校保健委員会・家庭地域保健との連携

第15回：保健室経営案と学校保健計画について理解する。

保健室経営案と学校保健年間計画を立案する

定期試験

テキスト

1)学校保健・安全実務研究会編著：学校保健実務必携《第3時改訂版》,第一法規,2014.

2)采女智津江:養護概説<第8版>,少年写真新聞社,2015.

参考書・参考資料等

随時紹介する

学生に対する評価

レポートでの評価

示されたレポート課題について文献を用い、論理的に述べることができているか。資料内容を理解した上で自分の考えを反映できているか。

授業科目名： 養護概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南 桂子、五十嵐利恵 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	養護概説		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「養護」の概念、「養護教諭」の歴史の変遷を理解する。</li> <li>2. 学校保健の中核的役割を担う養護教諭について、専門領域における職務や機能、役割を理解する。</li> <li>3. 児童生徒の健康上の課題を解決するための方法について具体的な養護教諭の実践活動を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>「養護」の定義・概念、養護教諭の専門性、学校における保健室の役割機能等を理解し、養護教諭としての活動についてその基礎を学ぶ。主な内容として、学校保健安全に関する法律の理解、保健室の機能や経営に関する理解、学校保健活動などについて学ぶ。また昨今健康上の問題とされているアレルギー性疾患をもつ児童・生徒への健康管理や指導、感染症罹患への予防対策について学ぶ。さらに、増加している心の健康について、問題への対応や養護教諭や保健室の役割、学校の教員やカウンセラーなどの他職種との連携した対応について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の目的、学校経営、学校保健について理解する。</p> <p>第2回：養護教諭の職務に関する変遷、専門職務領域と関係法規、職務内容について理解する。</p> <p>第3回：幼児期、児童期、青年期の発達発育、発達発育に伴う健康上の問題について理解する。</p> <p>第4回：健康診断、健康相談、保健指導、保健教育について理解する。</p> <p>第5回：①疾病管理の目的について理解する。 ②特別な対応を要する疾患、疾患を抱える児童生徒への対応、保健管理の必要性及び重要性について理解する。 ③保健管理の実際について、事例を通し理解する。</p> <p>第6回：学校環境衛生の目的、法的根拠、学校環境衛生の基準、活動における養護教諭の役割について理解する。</p> <p>第7回：心の健康の意義と基礎知識、児童生徒の心の健康問題の現状とその対応について理解する。</p> <p>第8回：子どもの心のケアの意義と基本的理解、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の基本的理解と予防、心のケアの進め方及び留意点、保護者及び関係教職員への対応について理解する。</p> <p>第9回：児童生徒を事件・事故から守り育てることの重要性、子どもの安全をめぐる状況(実態)、学校における危機管理・予防対策、養護教諭の役割について理解する。</p> <p>第10回：教育相談の意義と基本的な考え方、カウンセリングの意義と必要性、学校での教育相談と養護教諭の役割について理解する。</p> <p>第11回：保健室とは 保健室の役割・活動と関連法規、学校経営と保健室経営</p> <p>第12回：保健室経営計画の必要性、保健室経営計画の作成について理解する。</p> <p>第13回：保健室経営計画の事例を通し、保健室経営計画の作成について理解する。</p> <p>第14回：保健組織活動の必要性、学校保健組織とその役割、と関係法規について理解する。</p> <p>第15回：学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割・活動と関係法規、養護教諭との職務上の連携について理解する。</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>1) 采女智津江:新養護概説,少年写真新聞社,第8版,2015.</p>			

参考書・参考資料等

授業の中で随時紹介します。

学生に対する評価

1.評価の方法

評価は次の2点で行ないます。

①定期試験（筆記試験）80%

②レポート課題20%：授業期間中に提示する課題を、指示された期限までに提出してください。

2.最終評価

上記1で示す2点の評価をあわせて最終評価とします。

授業科目名： 健康相談活動の理論及び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 南 桂子、五十嵐利恵 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	健康相談活動の理論及び方法		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> このために必要な健康相談活動の基本、学校教育との関連、健康相談活動を行なうに必要な理論や専門的な技法について理解する。また具体的な他職種との連携を密にした活動の方法について修得する。			
<b>授業の概要</b> わが国において社会が抱える多くの問題と、教育の現場において行なわれている健康相談活動には強い関連があるといわれている。これらの現状について理解すると共に、対象となる児童・生徒が成長発達段階の途上にあることからすると、多方面の専門分野の専門家と連携をとりながら適切に対応していく必要がある。			
<b>授業計画</b> 第1回：健康相談活動とは何か、概念・目的、健康相談活動誕生の経緯と変遷、保健室経営と健康相談活動について理解する。 第2回：児童生徒の健康問題、子どもの人権問題、反社会的行動等と健康相談活動 第3回：子供の人格発達論、児童生徒に見られる発達障害と対応、健康相談活動に生かすカウンセリングについて理解する。 第4回：児童生徒における病理現象の社会的側面、強い心理的ショック(トラウマ)と児童生徒への対応について理解する。 第5回：健康相談活動の基本的な考え、健康相談活動の必要性、健康相談活動の基本的な進め方(流れ、プロセス)について理解する。 第6回：健康相談活動に、①特質を生かした養護教諭の職務。②保健室の機能を生かすこと。③心身医学の知識を生かすこと。④ヘルスアセスメントを生かすこと。⑤カウンセリング機能を生かすことについて理解する。 第7回：連携の意義と必要性、連携における養護教諭の役割、健康相談活動における連携の対象と方法について理解する。 第8回：学校における連携、保護者との連携、校内相談組織、心理カウンセラー等心の相談担当者との連携について理解する。 第9回：①日常の訴えと健康相談活動の基本を事例より理解する。②保健室登校を中心とした継続対応について事例より理解する。 第10回：③危機的管理が必要な対応を事例より健康相談活動を理解する。④精神疾患への対応例より健康相談活動を理解する。 第11回：①特別支援教育の意義必要性について理解する。 ②特別支援教育と健康相談活動の基本。③特別支援教育と養護教諭の役割と職務。 第12回：④特別支援教育における保健室の役割。⑤特別なニーズのある児童生徒の健康相談活動について理解する。 第13回：健康相談活動における記録の意義および必要性、健康相談活動における事例の検討の必要と事例検討会の進め方。 第14回：健康教育に果たす健康相談活動の役割、心の健康や生活習慣と健康相談活動について理解する。 第15回：①心の健康に関する教育と健康相談活動について理解する。②ストレス・マネジメント、ソーシャルスキルトレーニングについて理解する。			
定期試験			

テキスト

1)三木とみ子:健康相談活動の理論と実際 -どう学ぶか どう教えるか,ぎょうせい,2016.

参考書・参考資料等

授業の中で随時紹介します。

学生に対する評価

1.評価の方法

評価は次の2点で行ないます。

①定期試験（筆記試験）80%

②レポート課題20%：授業期間中に提示する課題を、指示された期限までに提出してください。

2.最終評価

上記1で示す2点の評価をあわせて最終評価とします。

授業科目名： スポーツ栄養学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 砂 博子 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	栄養学（食品学を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントする上での第一歩であることを得る。</li> <li>・競技者に対する栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識を身につける。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持・増進さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取について基本的な知識を学習する。</li> <li>・競技者にとって適切な食事やトレーニングの目的にかなった食事の摂り方などを具体的に学ぶ。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：・・・糖質の種類と役割、脂質の種類と役割、たんぱく質(必須アミノ酸、非必須アミノ酸)の種類と役割、ビタミンの種類と役割、ミネラルの種類と役割について</p> <p>第2回：・・・エネルギー必要量の推定、たんぱく質の摂取目安量、脂質の摂取目安量、ビタミンの摂取目安量、ミネラルの摂取目安量について</p> <p>第3回：・・・栄養アセスメントの必要性、トレーニングと食事、スポーツする人の基本的な食事のしかたについて</p> <p>第4回：・・・体内水分、体温調節、熱中症、水分補給について</p> <p>第5回：・・・エネルギー消費量の推定、アスリートの食事摂取基準と食品構成の考え方、アスリートの日常的な食事の整え方、合宿期の食事、海外遠征時の食事調整、増量からだ作りのための食事、減量/ウエイトコントロール時の食事について</p> <p>第6回：・・・持久力向上と食事、試合前調整期の食事、試合当日の食事調整、試合間の補給、試合後のリカバリーのための食事について</p> <p>第7回：・・・エネルギー源栄養素の不足による栄養障害、エネルギー源栄養素の過剰による栄養障害、鉄欠乏性貧血、骨密度低下と疲労骨折、サプリメントとは、サプリメントと健康問題、サプリメントとドーピング問題、どんな時にサプリメントが有効かについて</p> <p>第8回：・・・運動時の水分補給の目安量、電解質の補給、糖質の補給について</p>			
<b>定期試験</b>			
<b>テキスト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ(財団法人日本体育協会 発刊)</li> <li>・配布資料</li> </ul>			
<b>参考書・参考資料等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時紹介</li> </ul>			
<b>学生に対する評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験90% 講義中の提出物10%</li> </ul>			

授業科目名： 食品学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 砂 博子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	栄養学（食品学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 健康に生きていくために必要な栄養成分を含む食品についての知識、食品と人間の関わりについて修得する。			
授業の概要 主な内として、食品に関する栄養学的特性、食品成分、食品の分類、保存、貯蔵に関する知識など、食品全般に関する知識を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、栄養学（食品学）、食育とは、食品成分表の使い方など 第2回：栄養素と食物 食物の摂取 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第3回：炭水化物とその栄養 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第4回：脂質とその栄養 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第5回：たんぱく質とその栄養 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第6回：無機質、水とその栄養 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第7回：ビタミンとその栄養 テキスト1. 2. 3. 関連資料、パワーポイント 第8回：エネルギー代謝、栄養評価、食品、保存、貯蔵 テキスト1. 2. 関連資料、パワーポイント 定期試験			
テキスト 1. 「三訂 栄養学総論」建帛社・ 編著者 林 淳三 2. 「新しい技術・家庭 家庭分野(学習ノート)私たちの食生活」東京書籍・・・ 3. 食品成分表			
参考書・参考資料等 随時紹介・・・・・・・・・・			
学生に対する評価 筆記試験80% 提出物10% 授業態度10%			

授業科目名： 身体構造機能学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田正治 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	解剖学及び生理学		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体との関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく身体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を修得する。			
<b>授業の概要</b> からだの構造と機能の概要、細胞の構造と働き、遺伝子の構造と役割、組織の分類と概要、消化器系の構造と機能、排泄系の構造と機能、血液・循環器系の構造と機能について教授する。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回～2回：細胞膜、細胞質、細胞骨格、および核 第3回～4回：遺伝子とゲノム、DNAの構造、遺伝子の複製とたんぱく合成 第5回～6回：組織の基本的分類、上皮組織の分類、腺組織 第7回～8回：口、咽頭、食道、胃 第9回～10回：小腸、大腸、すい臓、肝臓、胆のう 第11回～12回：気管、肺、呼吸運動 第13回～14回：内呼吸、外呼吸、ガス交換 第15回～16回：小テスト 第17回～18回：細胞外液、細胞内液、間質液、血液の細胞成分とその役割 第19回～20回：凝固系の活性化、線維素溶解系、ABO式血液型およびRh式血液型 第21回～22回：心房と心室および心臓の弁膜、心臓の血管系、心筋のリズムの発生 第23回～24回：特殊心筋と固有心筋、標準肢誘導と胸部誘導 第25回～26回：各部位の血管、弾性血管、抵抗血管、交換血管、容量血管 第27回～28回：昇圧および降圧ホルモン、心臓血管調節系 第29回～30回：腎臓の構造、排尿路 <b>定期試験</b> <b>テキスト</b> ・系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）、配布プリント <b>参考書・参考資料等</b> ・シンプル生理学（南江堂） <b>学生に対する評価</b> 小テスト 20%、筆記試験 80%			

授業科目名： 身体構造機能学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田正治 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	解剖学及び生理学		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体との関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく身体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を修得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>内分泌系、骨格・筋系、神経系、感覚系、免疫系、体温調節系、生殖系の構造と機能について教授する。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回～2回：排泄機序、体液の調節</p> <p>第3回～4回：内分泌による調節、脳一下垂体系、自律神経系</p> <p>第5回～6回：甲状腺、膵臓、副腎、性腺</p> <p>第7回～8回：骨の構造、骨を構成する細胞、骨の発生、頭蓋、脊柱、上肢および下肢の骨格</p> <p>第9回～10回：筋線維の構造、筋節、興奮収縮連関</p> <p>第11回～12回：頭部、頸部、胸部、腹部、上肢、下肢の筋肉、平滑筋、心筋</p> <p>第13回～14回：小テスト</p> <p>第15回～16回：神経細胞、活動電位、神経伝導</p> <p>第17回～18回：脊髄、脳幹、視床下部</p> <p>第19回～20回：大脳辺縁系、大脳皮質</p> <p>第21回～22回：視覚、聴覚</p> <p>第23回～24回：味覚、嗅覚、体性感覚、痛み</p> <p>第25回～26回：骨髄、胸腺、リンパ節、単球、リンパ球</p> <p>第27回～28回：熱産生、エネルギー産生、基礎代謝量</p> <p>第29回～30回：生殖器の構造、受精、胎児、成長、老化</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）</li> <li>・配布プリント</li> </ul>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプル生理学（南江堂）</li> </ul>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小テスト 20%、筆記試験 80%</p>			

授業科目名： 病態学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 供田 文宏 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 病理学とは病気（疾病）の原因と発症の仕組み、その経過、結果を研究し、明らかにする学問であり、医学の根底をなすものである。病態学総論では、疾患を臓器ごとではなく、その成り立ちから分類し学ぶ。 目標：①疾患をその発生機序により分類し、それぞれどのような疾患があるが具体例を挙げることができる。②それぞれの疾患群について、その原因、経過、結果を病態生理に基づき説明できる。③また、代表的な疾患についても、その原因、経過、結果を簡単に説明できる。			
<b>授業の概要</b> 人間の健康状態を科学的にアセスメントし必要な援助を考える上で、疾病に関する知識は不可欠である。これを理解するための科目として病態治療論を位置づける。病態学総論では、病態治療論Ⅰ～Ⅴの基礎となる疾病の概念と病因について教授する。 内容は、疾病の概念と病因、疾病の分類とその成り立ち、先天異常・代謝障害・循環障害の原因・経過・結果、炎症及び免疫異常の原因・経過・結果、腫瘍の原因・経過・結果である。			
<b>授業計画</b> 第1回：病理学とはどのような学問か、また実際の医療現場における役割を説明できる。先天異常の原因、経過、結果、また代表的疾患について簡単に説明できる。 病理学、病理組織診断、病理解剖、外因と内因、メンデルの遺伝法則、遺伝子異常、染色体異常、奇形、等 第2回：細胞障害と適応について説明できる。代謝障害の原因、経過、結果、また代表的疾患について簡単に説明できる。 壊死、アポトーシス、肥大、過形成、萎縮、脂質、糖質、蛋白質代謝異常。高脂血症、糖尿病、動脈硬化、等 第3回：循環障害の原因、経過、結果、また代表的疾患について簡単に説明できる。 浮腫、血栓症・塞栓症の病態、病理および治療について学ぶ。 第4回：炎症の原因、経過、結果、また代表的疾患についても簡単に説明できる。感染症について簡単に説明できる。 急性炎症の4徴候、好中球、肉芽組織と瘢痕。慢性炎症、等 第5回：免疫系の概要を説明することができる。免疫異常の原因、経過、結果、また代表的疾患について簡単に説明できる。 自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫、アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患、拒絶反応、GVHD、等 第6・7回：良性、及び悪性腫瘍の原因、経過、結果について説明できる。 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、癌と肉腫、浸潤・転移の様式、癌の原因、癌の診断・治療、疫学、等 第8回：まとめ			

定期試験

テキスト

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 病理学, 医学書院, 2014

参考書・参考資料等

- ・なし

学生に対する評価

定期試験 (筆記試験100%)

授業科目名： 微生物学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高田 伸弘 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 病原体の観点からだけ教授するのではなく、微生物の特徴を人体の機能と関連させながら教授し、看護の視点から微生物を捉えられるようにする。			
<b>授業の概要</b> 具体的内容は、微生物の性質（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、人体と微生物の共生（微生物の生態系、常在微生物叢、人体の非特異的防御反応等）、共生のバランスの崩壊（侵入門戸、感染による人体の反応、主な病原微生物の特徴、感染症の現状、感染症の診断と治療、院内感染、感染症の予防手技）などである。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回：研究の歴史、病原体の定義 第2回：感染の多様化（新興再興、人獣共通）、監視体制 第3回：感染経路と感染防御免疫 第4回：病原細菌の生物学的特性、増殖環境 第5回：主な球菌、桿菌感染症各論 第6回：細菌性食中毒の括り 第7回：スピロヘータ、リケッチア、クラミジア症の括り 第8回：病原ウイルスの生物学的特性、増殖環境 第9回：主なウイルス症各論 第10回：インフルエンザ、肝炎、プリオンの括り 第11回：病原真菌と原虫の生物学的特性、増殖環境 第12回：多彩な検査法、化学療法の基礎 第13回：感染防御の基礎（滅菌、消毒）（スライド映写） 第14回：院内感染防御の実際（スライド映写、DVD視聴） 第15回：課題レポートの提出、国家試験の演習 <b>定期試験</b>			
<b>テキスト</b> ・藤本秀士・目野郁子・小島夫美子著：わかる！身につく！病原体・感染・免疫、南山堂			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（筆記試験80%、レポート20%）			

授業科目名： 薬理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 村松 郁延 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 医療において薬物療法は重要な治療法である。看護師は患者の状態をアセスメントし指導する上で、また、医療事故を防止するためにも薬物に関する知識が不可欠である。看護する上で必要な薬理の知識をまとめて修得し、各病態治療論や看護学につなげる。			
<b>授業の概要</b> 薬物の作用と体内動態、薬効に影響する因子、薬の有害作用、中枢神経作用薬、ホルモン・オータコイド、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系・皮膚及び眼作用薬、ビタミン、化学療法薬、抗感染症薬、消毒薬について学習する。			
<b>授業計画</b> 第1回：薬が生体に対し、どのような機序で、どのような影響を及ぼすか。 第2回：薬を扱う上での基本用語 第3回：病原微生物（細菌、ウイルスなど）の基礎事項、消毒薬の薬理作用および使い分け 第4回：抗感染症薬（抗生物質・抗真菌薬・抗ウイルス薬）の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第5回：抗がん薬・免疫治療薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第6回：抗アレルギー薬、抗炎症薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第7回：末梢神経作用薬1；交感神経作用薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第8回：末梢神経作用薬2；副交感神経、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第9回：中枢神経作用薬1；麻酔薬、催眠薬、抗不安薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第10回：中枢神経作用薬2；抗精神病薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第11回：循環器系作用薬1；高血圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬などの作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第12回：循環器系作用薬2；利尿薬、脂質異常症治療薬、血液作用薬などの作用機序及び生体変化（主作用・副作用） 第13回：呼吸器系・消化器系・生殖系・泌尿器系作用薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第14回：ホルモン、ビタミン、皮膚科及び眼科用作用薬の作用機序及び生体変化（主作用・副作用など） 第15回：グループ発表会（課題；服薬に関する患者指導について、実際の処方箋を題材に看護師の視点で投薬に関する工夫や相互作用などを検討する）			
定期試験			
テキスト ・吉岡充弘世 他：系統看護学講座 薬理学，医学書院			
参考書・参考資料等 ・藤原元始監訳：グッドマン・ギルマン薬理書，廣川書店，			

- ・日本医薬情報センター編：日本医薬品集，薬業時報社.
- ・菱沼滋：薬理学・薬物治療学，ティ・エム・エス.
- ・田中正敏：薬はなぜ効くか（医師・看護師・薬剤師へ），講談社・

学生に対する評価

定期試験（筆記試験 80%、レポート 20%）

授業科目名： 精神保健看護学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂東紀代美 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	精神保健		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 精神医療の歴史的背景および精神保健医療福祉制度の動向、看護職に求められる役割と機能、精神科看護の基礎となる人間関係論を修得する。			
<b>授業の概要</b> 精神看護学は精神科看護学と精神保健学を指している。多様な精神病について、メンタルヘルスの視点から理解し、人間のライフステージと心身の発達から、パーソナリティの成熟と適応について教授する。また、精神科領域における保健医療福祉に関する歴史・法律・制度の変遷・課題を体系的に教授し、精神科疾患を抱えながら生活している人々の人権や権利擁護について教授する。			
<b>授業計画</b> 第1回：精神の健康と障害を理解し説明できる。 精神の健康とは、精神の健康と障害の3つの側面、精神健康の基準、精神障害の体験、精神障害のとらえ方 第2回：人間の心のはたらきⅠ—人間の諸活動について理解し説明できる。 人格と気質、知能、意識と認知機能、感情、学習と行動、心の理論 第3回：人間の心のはたらきⅡ—心のしくみと人格の発達について理解でき説明できる。 精神分析と精神力動理論、エリクソンの漸性的発達理論、対象関係論 第4回：人間の心のはたらきⅢ—心の危機とストレスについて理解でき説明できる。 危機理論とストレス理論、ストレスへの対処（コーピング）、ストレスとしての心的外傷（トラウマ）、危機を乗り越え、成長していくための支援と力 第5回：関係のなかの人間—全体としての家族、人間と集団について理解でき説明できる。 家族・家庭の精神保健、家族の多様性、家族と健康、家族内コミュニケーションのゆがみ、家族のなかの役割関係、家族療法の考え方、集団のなかの自己、全体としてのグループ、グループの実践 第6回：精神科で出会う人々—精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像について理解でき説明できる。Ⅰ さまざまな病気の説明の仕方をさぐる、看護と精神医学の広がり、症状とはなにか、さまざまな精神症状（思考の障害、感情の障害、意欲の障害、近くの障害、意識の障害、記憶の障害、局在症状） 第7回：精神科で出会う人々—精神障害の診断と分類について理解でき説明できる。Ⅱ 精神障害の診断と分類—診断と疾病分類、統合失調症、気分[感情]障害 第8回：精神科で出会う人々—精神障害の診断と分類について理解でき説明できる。Ⅲ 神経症性障害、ストレス関連生涯および身体表現性障害、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 第9回：精神科で出会う人々—精神障害の診断と分類について理解でき説明できる。Ⅳ パーソナリティ障害、器質性精神障害、知的障害、精神遅滞、心理的発達の障害、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、心身症			

第10回：精神科での治療 I—薬物療法。電気けいれん療法、精神療法（個人・集団）、環境療法・社会療法について理解でき説明できる。

向精神薬とは、向精神病薬、抗うつ薬、電気けいれん療法、個人療法、集団精神療法、家族療法、環境療法・社会療法の歴史、日本における社会療法の歴史

第11回：社会のなかの精神障害について理解でき説明できる。 I

ライフサイクルにおける適応と不適応：虐待・暴力・いじめ・DV・PTSD・離婚

第12回：社会のなかの精神障害について理解でき説明できる。 II

日本における精神医学・精神保健医療福祉の変遷、岩倉保養所とゲールコロニー、精神障害と文化、精神障害と社会学

第13回：社会のなかの精神障害—精神障害と法制度について理解でき説明できる。 III

精神科看護と法律、精神障害者にとっての法律、精神保健医療福祉の制度と社会的背景、精神科看護師にとっての法律や制度

第14回：社会のなかの精神障害—精神科領域で必要な法律と制度について理解でき説明できる。 IV

権利擁護に関する法律と制度、医療を受けるための法律と制度、生活を支えるための法律と制度、情報のための法律と制度、保健医療に関する資源の活用と調整

第15回：精神看護における課題

法律・制度における課題（人権擁護、入院制度、生活支援等）、精神看護に携わるということ、精神看護学の基本的な考え方、看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

定期試験

テキスト

武井 麻子他：系統看護学講座 専門分野 II  
精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 2015

参考書・参考資料等

武井 麻子他：系統看護学講座 専門分野 II  
精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院 2013

筆記試験90% レポート10%

授業科目名： 基礎看護学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森山悦子 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 看護学の学問領域、看護学の学問対象について解説し、看護はどのような学問によって支えられているかを解説する。			
<b>授業の概要</b> また 看護師の専門職としての職業的位置、専門職の定義・概念・看護の定義と独自性、さまざまな医療従事者とその役割の理解、さらに医療チームのありよう、その中での看護チームのありよう等について教授する。つづいて看護の歴史を概観し、時代の社会的ニーズと看護の役割・看護教育の歴史を概観し、将来の看護・教育・役割・活動のありようを考えさせる。次に看護活動をどのようなステップで行うかについて看護活動過程とそのすすめ方、看護過程の各段階における機能(情報収集とアセスメントー看護診断ー看護計画ー看護実施ー看護評価等)の遂行方法等について教授する。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回：学問としての枠組みと看護学の位置づけを述べるができる。学問の対象と方法論について述べるができる。 科学領域と分類、科学とは、哲学とは、知識とは、科学領域別学問の対象、看護学の科学における位置づけ、学問の対象、学問の方法論 第2回：看護の本質および看護学の領域、学問対象、学問としての方法論について説明できる。 看護とは、F.ナイチンゲール・V.ヘンダーソン、看護の定義、看護学の分類、看護学の学問の対象、看護学における方法論 第3回：看護の誕生と日本の近代期の医療と医学について説明できる。 看護の誕生、近代期以前の社会状況と医療・看護、近代期の社会状況と疾病と医療・看護の状態、明治政府の医療・医学の政策 第4回：職業として発展した近代期の看護について、看護制度及び教育制度について説明できる。 近代期の看護婦の養成と特徴、ナイチンゲールの日本への影響、ナイチンゲール方式、近代期の看護・保健師・助産師のはじまり、日清戦争、日露戦争、第2次世界大戦と看護 第5回：わが国の戦後における看護改革について、戦後～今日に至る職業的看護の変遷を学び、戦後の看護制度および教育制度の改革、今日に至る課題、今後の展望について説明できる。 GHQと日本の諸制度の改革、看護教育制度、看護制度、保健師助産師看護師法の制定、看護課の設置、看護部制模範看護学院の開設、看護協会の設立、看護活動の場と役割の拡大 第6回：看護教育制度におけるカリキュラムの改正について説明できる。 看護婦指定規則、昭和42年の改正の主旨と特徴、平成元年の改正と特徴、平成19年の改正と特徴、 第7回：生命ー死ー生きるー健康等についての概念とこれらと環境との関係を述べるができる。生命、死、生きる、健康の定義の理解、これらと環境との関係、環境の前提条件、さまざまな死の定義、適応・調整とは 第8回：健康の構成要素、看護の対象である個人・家族・集団等の健康と健康阻害因子等との関係について述べることができる。 身体的健康・精神的健康・社会的健康とは、看護の対象、個人と家族の健康と阻害因子、集団の健康と阻害因子、疾病の進展過程、予防医学と手段 第9回：人間のライフサイクルと発達段階・発達課題、成長・発達の一般的原則について説明できる。			

ライフサイクルの定義、成長・発達・成熟の定義、一般的原則、発達段階の区分と発達課題

- 第10回：環境の変化とストレス、ホメオスタシス・防衛機制・コーピング行動等について説明できる。  
人間の行動と様式、ストレス、ストレスコーピング、ホメオスタシス、防衛機制・コーピング等の定義、これらと環境の変化と疾病との関係、肯定的・否定的コーピング、情緒中心型・問題中心型コーピング
- 第11回：人口動態と健康の質・量の把握方法を説明できる。  
日本・世界の総人口、人口密度、人口の構成、平均寿命、受療状況、死亡率と死亡別死亡の状況、年齢と死因、人口の質・量の把握方法
- 第12回：健康な環境づくりと保健医療提供システムの形態とチーム活動の実際について説明できる①  
健康生活と国の責任、医療の理念、包括的保健医療システム、健康作り政策とセルフケア、ヘルスプロモーション、エンパワーメント、セルフエフィカシー、プライマリヘルスケア、ノーマライゼーション等の定義、医療チームと構成員、一次・二次・三次医療とは、診療報酬制度
- 第13回：健康な環境づくりと保健医療提供システムの形態とチーム活動の実際について説明できる②  
地域医療提供の理念と形態、地域保健のシステム、①医療施設：（診療所、病院、助産所、老人保健施設、訪問看護ステーション、）、②保健施設：（保健所、市町村保健センター、精神保健福祉センター）、③関連福祉機関（福祉事務所、在宅介護支援センター）
- 第14回：看護理論の概念枠組み、看護理論の分類について述べるができる。  
看護理論の分類、発達論、ニード論、相互作用論、システム論、ケアリング論
- 第15回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 I。  
ナイチンゲールの看護理論と主要概念の定義
- 第16回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 II。  
ヘンダ・ソンの看護理論の概要と主要概念の定義
- 第17回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 III。  
オレムの看護理論の概要と主要概念の定義
- 第18回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 IV。  
ロイの看護理論の概要と主要概念の定義
- 第19回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 V。  
トラベルビー、ペプロー、ロジャースの看護論
- 第20回：各種看護理論の概要と主要概念について説明できる。理論 VI。  
ベナー、レイニンガー、ニューマンの看護論
- 第21回：看護と対象である人間の理解についての枠組みを説明できる。  
身体の把握枠、心理・精神の把握枠、生活場面の意義と把握枠、社会的・環境の把握枠、疾病についての把握枠、発達段階別発達課題と把握
- 第22回：看護業務と看護職種について説明できる。  
保助看法等における看護職種（保健師・助産師・看護師・准看護師）の定義、認定看護師・専門看護師の定義と業務・教育、看護チームとは
- 第23回：看護過程と看護診断について説明できる。  
看護過程と看護診断過程で使用する用語の定義、看護活動と情報収集・アセスメント、看護診断、看護計画、看護評価、NANDAの看護診断、看護診断の意義
- 第24回：医療行為の理念と倫理について説明できる①  
医療の本質、患者の主体性、自己決定権、QOL、（生命・人生・生活の質）人権等の定義と解釈、ICの基本理念、知る権利
- 第25回：医療行為の理念と倫理について説明できる②  
倫理とは、倫理と法、倫理の意義、生命倫理の定義生命倫理の基本原則、生命倫理学とは、ニュールンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ジュネーブ宣言、患者の権利章典、バイオエシックスの学際性、倫理委員会の発足、臓器移植と脳死判定、死の定義
- 第26回：看護活動と倫理の重要性について説明できる。  
看護倫理とは、看護倫理の意義、看護界の倫理要綱、ナイチンゲール誓詞の基本理念、ICNの倫理綱領、日本看護協会倫理綱領、看護・看護研究と倫理的配慮、対人関係と倫理的態度

第27回：保健医療分野における国際協力の必要性とその仕組み・活動の概要を説明できる。  
国際協力の考え方、国連の活動、国際協力のしくみ、国際保健協力の組織と活動の状況：多国間協力(国際機関への協力)と二国間協力

第28回：看護管理の概要について説明できる。①

看護管理とは、看護部の組織、看護単位と看護方式、クリティカルパス

第29回：看護管理の概要について説明できる。②

看護の評価、組織面の評価、ケア評価、病院看護機能評価、日本医療機能評価機構の新評価項目体系、クリティカルパス

第30回：専門職とその要件について説明できる。

専門職の定義、専門職の要件、高度専門職と教育、高度専門職（CNS）の独自の機能、看護の高度専門職の種類、高度専門職のカリキュラム、高度専門職の認定、プロフェッションとスペシャリスト、認定看護師とは、認定機関、認定看護師の教育機関、認定看護師の種類

定期試験

テキスト

- ・佐藤登美:看護学概論 専門分野① 新体系看護学全書、メヂカルフレンド社、
- ・野嶋佐由美編:看護学の概念と理論的基盤 看護学基礎テキスト第1巻、日本看護協会出版会、
- ・田村やよひ著：私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法、日本看護協会出版会

参考書・参考資料等

- ・J・S ヘイズ、K・H ラーソン著：看護実践と言葉、メヂカルフレンド社[絶版]
- ・日本看護協会：看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理、日本看護協会出版会

学生に対する評価

①筆記試験60%：中間試験と定期試験の2回の試験を実施します。

②レポート課題40%：授業の中で課題を提示します。

授業科目名： 基礎看護学実習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 森山悦子、藤本ひとみ 吉江由加里、蔵屋敷美紀 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 看護を学ぶ上で基本となる方法論や援助技術である人間を把握する技術、コミュニケーション技術、日常生活場面における看護技術について教授することを目標とする。			
<b>授業の概要</b> コミュニケーション技術、生活の援助技術、運動と休息の援助などについて、根拠に基づいて考え実践できるように、演習を通して教授する。また、生活場面において考えられる事故について考え、安全・安楽に援助を行えるように、その方法を教授する。			
<b>授業計画</b> 授業計画 第1回：基礎看護学実習 I の学習について理解できる。 (1) 実習全般オリエンテーション 第2回：基礎看護学実習 I の学習について理解できる。 (2) 実習目的、実習方法、記録の書き方、実習評価 第3回：基礎看護学実習 I の学習について理解できる。 (3) 学習における諸注意 第4回：基礎看護学実習 I の学習について理解できる。 (4) 実習施設概要の説明 第5回：基礎看護学実習 I の学習について理解できる。 (5) 実習施設の見学 第6回：病床環境、病棟の設備とその使用方法について説明できる。 (1) 室温・湿度の調節、換気設備、病室の保清・時間・方法、病室の物品（ナースコール、床頭台、椅子、洗面台）等の特徴や使用方法、ナースステーションの使用目的、処置準備台、洗浄槽（流しの特徴）、冷蔵庫、薬品戸棚と収納薬品、インターフォンと使用目的、看護記録・診療記録の形態・活用方法、記録物の見方と扱い方 第7回：病床環境、病棟の設備とその使用方法について説明できる。 (2) コンピュータの使用目的、黒板（ホワイトボード）の記載内容・使用方法、リネン室・病棟倉庫（物品格納室）の格納物品、便所・汚物室の特徴、蓄尿瓶の管理、蓄尿時間と方法、便器・尿器の種類・洗浄・消毒方法、便尿器の汚れと消毒薬品、浴室の構造・特徴、備品、脱衣場の構造 第7回：入院患者の日課と日常生活の実際について説明できる。 (1) 起床と時間、洗面方法・時間、朝食方法・時間、日中の患者の過ごし方（昼食方法・時間、入浴方法・時間 第8回：入院患者の日課と日常生活の実際について説明できる。 (2) 外出・外泊の手順・方法、更衣と方法・時間、寝具・病衣交換・日時）、夜間帯の患者の過ごし方（夕食方法・時間、消灯時間・方法） 第8回：医療現場で就業する医療職と看護組織・運営方法について説明できる。 (1) 医療職種（医師、看護師・助産師・准看護師、理学療法士、作業療法士、看護助手等）とチー			

ムワーク、看護組織（看護師長、副看護師長、看護師、准看護師、看護助手等）の役割

第9回：医療現場で就業する医療職と看護組織・運営方法について説明できる。

- (2) キャリアラダー、看護体制(チームナーシング、受け持ち制、機能別制、混合制)、勤務時間帯(日勤、夜勤)による役割分担と業務内容

第9回：看護組織の活動の実際、運営の方法について説明できる。

- (1) 患者の状態確認(検温方法・時間、回診日時、病棟・居室での主要な診療内容・時間・方法、他科受診の方法、与薬方法等)と、それらの情報共有(申し継ぎ方法・時間、カンファレンス方法・計画立案・修正方法)、メンバーとリーダーの役割

第10回：看護組織の活動の実際、運営の方法について説明できる。

- (2) 食事の種類(一般食・特別食)、食事介助、配膳車への準備と食事温度の管理、配膳方法、集膳方法、食事摂取量の確認、投薬時間、投薬準備と準備者、投薬方法、薬剤の種類と保管、投薬確認、回診の準備、回診者、回診日、回診時の看護者(補助者)と役割、看護長(師長)の役割

第11回：看護組織の活動の実際、運営の方法について説明できる。

- (3) 検査の種類と準備、検体の種類と保管、検査物の提出方法と場所、検査についての患者への説明、便・尿器の病室での取り扱い、排泄物の処理方法、ベッド上排泄と環境調整、排泄後の看護、排泄物の処理扱い方、患者の移送に使用する、ストレッチャー、車椅子の構造と作動操作、患者の入院と退院(オリエンテーション、部屋の準備、記録物や書類の準備、入院費の確認、関係箇所への連絡)、院内感染対策(主な病状の確認、感染経路の確認、具体的な対策)

第12回：看護師としての品位のある対応ができる。

人間として品位のある言葉遣い、敬語の使用、敬意を払う態度、専門職者としての言動、電話時の対応、面会者への対応、患者への対応、家族への対応、同業者間でのマナー、贈答品と対応、学生としてのマナー

第13回：患者との相互交渉におけるコミュニケーションの目標を明確にできる。

看護的視点からの目標設定、把握事項の具体的な計画と意味、計画事項の量

第14回：コミュニケーションの目標を達成するために、具体的に何を把握するのかを配慮すべきことを明確に述べることができる。

身体的配慮、精神的配慮、日常生活上の配慮、診療的配慮、面会時の配慮、気持ち上のゆとりへの配慮

第15回：患者と相互交渉をすることができる。

患者の言動時の体位姿勢位置・視線・言語の明瞭、記憶できる時間量、交渉中のメモと問題点

第16回：学生と患者の言動に対して患者が表出した反応の性質を(ヘイズとラーソンの反応の性質の活用、反応の前後関係と関連させて)読むことができる。

相互交渉の結果、学生と患者間に起こった現象を判断(現象=結果)

第17回：現象の起こり(反応の特徴と現象との関係)を客観的に述べることができる。

第18回：相互交渉の開始、維持、終了をスムーズにできる。

目標の達成度の効果・進行状況、関係維持能力、関係終了能力、関係終了能力

第19回：患者の反応に対して問題視(問題視事項の明確化)でき、考えたこと(自分の反応に対する他者の思考の確認)を表出できる。

第20回：相互交渉過程で脱線に気づき(効率、目標の達成)引き戻すことができる。

第21回：患者の反応の意味が正確(情報の正確度)に把握できなかった場合、正確に把握するための検索(探索の深化、誤解の回避)ができる。

第22回：目標とした事項について把握できた内容を明記でき、把握できなかった事項は、その理由を述べることができる。

第23回：患者の言動をどう受止め、思考したか、また、患者の言動からわいた感情を表出できる。

テキスト

実習要綱、配布した実習に関連する資料・記録物

参考書・参考資料等

必要時、随時紹介する

学生に対する評価

①学習内容及び実習記録の内容と提出状況（80%）、②カンファレンスへの参加状況（20%）

授業科目名： 基礎看護学実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森山悦子、藤本ひとみ 吉江由加里、蔵屋敷美紀 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 理論的な根拠に基づき、対象に関する情報を看護学的視点から分析し統合する方法及び計画的に看護を実施・評価することについて教授することを目標とする。			
授業の概要 看護過程の基盤は問題解決技法であり、対象者にとって必要な援助を見極め、提供するための方法論である。当科目はヘンダーソンの14領域を使用し、事例を通して系統的・かつ個別的な看護を実践できるよう、具体的な看護の展開方法を習得する。			
授業計画 第1回：基礎看護学実習Ⅱの学習について説明できる。 （1）実習目的、実習目標 第2回：基礎看護学実習Ⅱの学習について説明できる。 （2）実習方法 第3回：基礎看護学実習Ⅱの学習について説明できる。 （3）学習における諸注意 第4回：人間を把握のための情報枠を説明することができる。 身体の把握枠組、心理・精神の把握枠組、社会的状況の把握枠組、病像の把握枠組、病像の把握枠組、日常生活の把握枠組の具体的内容 第5回：診療録・看護記録等の個人記録の中の情報を活用できる。 （1）診療記録・看護記録からの情報の読み方 第6回：診療録・看護記録等の個人記録の中の情報を活用できる。 （2）記録物に示されている略語・表示方法 第7回：診療録・看護記録等の個人記録の中の情報を活用できる。 （3）記録物の扱い方 第7回：身体の把握枠組みを活用し、身体的な情報を把握できる。 （1）身体各部の把握枠組み 第8回：身体の把握枠組みを活用し、身体的な情報を把握できる。 （2）正常な状況・健康な状況とは、異常状況・健康逸脱状況とは 第9回：身体の把握枠組みを活用し、身体的な情報を把握できる。 （3）測定値の正しい読み方 第10回、11回：身体の把握枠組みを活用し、身体的な情報を把握できる。 （4）身体把握のアセスメント 第12回：心理・精神の把握枠組を活用し、精神や心理状態を把握できる。 （1）精神・心理の把握枠組み 第13回：心理・精神の把握枠組を活用し、精神や心理状態を把握できる。 （2）状況・状態把握のための測定方法 第14回：心理・精神の把握枠組を活用し、精神や心理状態を把握できる。 （3）健康な正常な範囲の精神活動および逸脱状況 第15回、16回：心理・精神の把握枠組を活用し、精神や心理状態を把握できる。 （4）心理・精神のアセスメント 第16回：社会的・環境的把握枠組みを活用し、おかれている状況・状態等を把握できる。 （1）社会的背景の諸側面			

- 第17回：社会的・環境的把握枠組みを活用し、おかれている状況・状態等を把握できる。  
(2) 社会的活動能力
- 第18回：社会的・環境的把握枠組みを活用し、おかれている状況・状態等を把握できる。  
(3) 環境的把握枠組み
- 第19回、20回：社会的・環境的把握枠組みを活用し、おかれている状況・状態等を把握できる。  
(4) 社会的・環境のアセスメント
- 第20回：病理・病状等について、病像の把握枠組みを活用し、把握する。  
(1) 病理・病態の把握枠組み
- 第21回：病理・病状等について、病像の把握枠組みを活用し、把握する。  
(2) 正常な状況・健康な状況とは、異常状況・健康逸脱状態とは
- 第22回：病理・病状等について、病像の把握枠組みを活用し、把握する。  
(3) 検査値の読み方
- 第23回、24回：病理・病状等について、病像の把握枠組みを活用し、把握する。  
(4) 病像のアセスメント
- 第25回：日常生活場面を把握枠組みを活用し、日常の生活状態を把握できる。  
(1) 日常生活場面の意義
- 第26回：日常生活場面を把握枠組みを活用し、日常の生活状態を把握できる。  
(2) 各日常生活把握枠組みとその内容
- 第27回：日常生活場面を把握枠組みを活用し、日常の生活状態を把握できる。  
(3) 入院による生活場面の变化
- 第28回、29回、30回：日常生活場面を把握枠組みを活用し、日常の生活状態を把握できる。  
(4) 日常生活場面のアセスメント
- 第31回：受持患者から体温、脈拍、血圧、呼吸、意識の5つのバイタルサインズを正しく測定することができる。  
(1) バイタルサインを測定する意義
- 第32回：受持患者から体温、脈拍、血圧、呼吸、意識の5つのバイタルサインズを正しく測定することができる。  
(2) バイタルサインを測定する際の諸注意
- 第33回：受持患者から体温、脈拍、血圧、呼吸、意識の5つのバイタルサインズを正しく測定することができる。  
(3) バイタルサイン測定シミュレーション
- 第34回：受持患者から体温、脈拍、血圧、呼吸、意識の5つのバイタルサインズを正しく測定することができる。  
(4) 実習場所での測定、評価、振り返り
- 第35回：受持患者から体温、脈拍、血圧、呼吸、意識の5つのバイタルサインズを正しく測定することができる。  
(5) バイタルサインの報告
- 第36回：看護師・医師等患者に関わる医療者より情報を把握できる。  
(1) 情報の意味、情報の客観性
- 第37回：看護師・医師等患者に関わる医療者より情報を把握できる。  
(2) 情報収集とその聞き方
- 第38回：看護師・医師等患者に関わる医療者より情報を把握できる。  
(3) 情報を判断する根拠、看護活動上の必要性
- 第39回：患者と相互交渉し、患者の内面、言語・非言語的に表出された事項から情報を把握できる。  
(1) 言語的・非言語的情報の意味
- 第40回：患者と相互交渉し、患者の内面、言語・非言語的に表出された事項から情報を把握できる。  
(2) 反応の読み
- 第41回：患者と相互交渉し、患者の内面、言語・非言語的に表出された事項から情報を把握できる。  
(3) 情報のレベル（真実・事実・現象とは）
- 第42回：受け持ち患者の発達課題とアセスメントができる。  
(1) 発達課題の意味、情報の取り方
- 第43回：受け持ち患者の発達課題とアセスメントができる。  
(2) 発達課題のアセスメント

第44回：実習における振り返りを行い、自己の課題を明らかにできる。

(1) 実習における反省と学び

第45回：実習における振り返りを行い、自己の課題を明らかにできる。

(2) 自己の課題

テキスト

実習要綱

既に配布している実習に関連する資料

参考書・参考資料等

時間内に随時紹介する

学生に対する評価

①学習内容及び実習記録の内容と提出状況（80%）、②カンファレンスへの参加状況（20%）

授業科目名： 急性期成人臨床看護学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大口二美 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 急性期・周手術期・危機状況等の定義、侵襲による生体反応、周手術期の患者のニーズ、周手術期の看護の目標・特徴、主要な症状時の対処方法・看護方法の実際・周手術期の看護管理等について修得する。			
<b>授業の概要</b> 胃切除術・人工肛門造設術・心臓手術後の患者等の日常生活の自立とQOLの向上のためのセルフケアの推進、リハビリテーションを支援するための看護方法について教授する。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回：外科的治療と外科看護について説明できる。 外科的治療の特色と変遷、外科看護の目的と特徴、周手術期における看護師の役割、インフォームドコンセントと看護師の役割 第2回：手術侵襲と生体反応について説明できる。 手術の侵襲に対するムーアの分類と各期の生体反応、サイトカインの作用 第3回：麻酔による身体への影響と看護について説明できる。 全身麻酔の種類と特徴、全身麻酔の身体への影響、全身麻酔後患者の看護、局所麻酔の分類と脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔時の看護 第4回：手術室の環境とその特徴、手術中の看護について説明できる。 手術室の環境管理とその特徴、手術室の安全管理、手術体位と器官系におよぼす影響と看護、手術直後の合併症とその看護 第5回：手術前の患者の看護について説明できる。創傷治癒管理、ドレーン管理について説明できる。 手術前の身体アセスメント、手術前の全身状態を整える援助、心理的援助、術前オリエンテーション創傷の治癒過程と創傷管理方法、ドレーン管理 第6回：手術後の合併症と発生機序、合併症に対する看護について説明できる。 手術後おこりやすい合併症の発生機序とその時期、術後合併症に対する看護 第7回：手術後の回復を促進するための看護について説明できる。 術後疼痛の発生機序と生体に及ぼす影響、疼痛緩和への援助、術後回復の促進のための栄養管理、早期離床の意義と方法 第8回：胃切除患者の看護について説明できる。 胃・十二指腸の構造と機能、胃切除術の術式、開腹術前・術後看護、腹腔鏡手術後の看護、ダンピング症候群の機序と看護、退院後の食生活をはじめとするセルフケアの推進のための看護 第9回：大腸がん・直腸がん手術後患者の看護について説明できる。 小腸・大腸の構造と機能、大腸がんの病態と検査、結腸がん・直腸がん手術の術式、術前・術後の看護、退院後の排便や排尿障害に対するセルフケアの推進のための看護と継続看護			

第10回：ストーマ造設患者の看護について説明できる。イレウスの病態と看護について説明できる。

ストーマ造設のボディイメージの変化に対する看護、術前のストーマサイトマーキング、術後のストーマ管理、退院後のストーマに対するセルフケアの推進のための看護と継続看護、イレウスの分類、症状・診断・治療と看護

第11回：食道切除術患者の看護について説明できる。胸腔ドレナージをうける患者の看護について説明できる。

食道の構造と機能、食道切除術の術式、術前・術後の看護、胸腔ドレナージの原理、胸腔ドレナージ挿入中・挿入後の看護

第12回：運動器の手術を受ける患者の看護について説明できる。

脊椎手術の術前・術後の看護、人工関節置換術の術前・術後の看護、離床および機能訓練への援助、退院後のセルフケアの推進のための看護

第13回：開頭術を受ける患者の看護について説明できる。①

頭蓋内圧亢進症状・脳ヘルニアの機序とバイタルサインの変化とアセスメント、頭部外傷の病態と看護

第14回：開頭術を受ける患者の看護について説明できる。②

脳動脈瘤手術の術式と術前・術後看護、動脈瘤の再破裂の防止のための看護、脳室ドレーン管理、退院後の社会復帰への支援と生活指導、正常圧水頭症の病態、シャント術と術後管理、シャント挿入中のセルフケアの指導

第15回：心臓手術を受ける患者の看護について説明できる。

心臓の構造と機能、心臓手術の術前・術後看護、低拍出量症候群や呼吸器合併症の予防と看護、セルフケア拡大（心臓リハビリテーション）への看護、ペースメーカー装着患者の看護

定期試験

テキスト

矢永勝彦他編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院.

北島政樹他編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院.

野崎真奈美他編：成人看護学 成人看護技術, 南江堂.

系統看護学講座 成人看護学 消化器・循環器・脳神経・呼吸器・運動器, 医学書院.

参考書・参考資料等

林直子他編：成人看護学, 急性期看護 I, 概論・周手術期看護, 南江堂.

池松裕子他編：成人看護学急性期看護, NOUVELLE HIROKAWA

鎌倉やよい・深田順子：周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院.

学生に対する評価

①筆記試験90%（中間試験1回30点満点、定期試験60点満点）と課題レポート10%（10点満点）の合計点にて評価します。

②レポートの課題内容、提出方法については、書面をもって連絡します

授業科目名： 急性期成人看護学 実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大口二美 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 手術によって侵襲を受ける対象を総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・看護実施を体験することにより、児童生徒の心身の変化に対してのフジカルアセスメントと緊急時の対応の基礎能力を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 手術を受ける患者を受け持ち、術前・術中・術後の身体・心理・社会的側面の情報を把握枠組みを活用して総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・看護実施・看護評価等、一連の段階を踏まえて看護過程を体験させ、周手術期患者の看護の実際と、看護過程の各段階における看護機能の遂行方法の実際について教授する。			
<b>授業（実習）計画</b> 1回：手術療法を受ける患者の病態と身体機能の理解 (1) 患者の疾病、病態、機能障害 2回：手術療法を受ける患者の病態と身体機能の理解 (2) 患者の術式、術式と合併症、合併症予防 3回：手術前の患者の全身状態に対するアセスメント (1) 術前の検査、フジカルアセスメント 4回：手術を必要とする患者と家族の心理状態の理解 (1) 患者の手術に関する認識、家族の認識 5回：患者の社会的背景や役割についての理解 (1) 社会的役割、手術による役割への影響 6回：手術が心理的側面に与える影響の理解 (1) 患者・家族、術前の不安 7回：手術前の患者の心身の準備のための援助 (1) 不安への援助 8回：患者に適した術前オリエンテーション (1) 術前オリエンテーション、患者の理解 9回：合併症予防のための術前訓練 (1) 深呼吸・排痰指導、離床方法の指導 10回：手術室入室前の処置・看護とその理由 (1) 入室前の患者準備、安全対策 11回：手術室の環境の特殊性 (1) 清潔な環境、手術室の設備、安全対策 12回：受持ち患者の麻酔法の理解 (1) 麻酔導入法、麻酔方法、麻酔時の管理 13回：術中体位による器官系の及ぼす影響と予防策 (1) 術中体位の留意点、予防策 14回：手術術式の理解 (1) 術式、再建法 15回：手術術式の理解 (1) 創部の大きさ、位置、ドレーン挿入部 16回：麻酔覚醒状態の理解 (1) 覚醒の観察、アセスメント、緊急時の対応 17回：術直後の身体への影響 (1) 呼吸・循環・体温への影響、緊急時の対応 18回～41回：回復を促進するための援助と術後の身体の機能・形態的变化が日常生活におよぼす影響を理解した援助 <b>※受持ち患者の術後の回復過程に応じて、下記のキーワードを全て網羅して学習するため授業回数ごとに分けることができなく、まとめて記載する。</b> (1) 術後経過、看護計画の立案、修正 (2) 術後状態、術後合併症、フジカルアセスメント、合併症予防対策			

- (3)創部の治癒過程、創部の観察、治癒促進の援助
- (4)早期離床、離床時の留意点、起立性低血圧、安全対策
- (5)術後疼痛、疼痛の観察のポイント、疼痛コントロール、疼痛緩和への援助
- (6)術式による身体機能の変化、形態的变化、日常生活に及ぼす影響
- (7)術後患者の日常生活での問題、患者の個別性、セルフケア自立への援助

42回：周手術期の患者の全体像の理解

- (1)受持ち期間の患者情報、情報の整理、看護の振返り

43回：患者情報と治療・処置・看護の統合

- (1)受持ち患者の経過、治療・処置・看護との統合

44回：関連図を作成し顕在的・潜在的問題の抽出

- (1)患者の個別性、関連図、顕在的・潜在的問題

45回：受持ち患者の経過と残された問題についてのプレゼンテーション

- (1)関連図、プレゼンテーション、カンファレンス

テキスト

- ・矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院
- ・北島政樹他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院
- ・野崎真奈美他：成人看護学 成人看護技術, 南江堂

参考書・参考資料等

医学書院の系統看護学講座

参考文献は適宜紹介します

学生に対する評価

①課題レポート20%、②看護実践と実習記録60%、③グループ討議への参加状況5%、④実習への学習姿勢15%の4点を総合的に判断する。

授業科目名： 小児看護学総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉田美幸 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 子どもが、家族や社会との関わりのなかで身体的・精神的・社会的な存在として成長・発達すること、乳児期から思春期に至る各発達段階では異なった特徴と発達上の課題を持っていること、そして、家族もまた子どもの成長とともに変化していることを教授する。そして、歴史的な子ども観や育児観を踏まえたうえで、発達理論を概観した子どもの成長・発達の様相と子どもの健やかな育ちを支援する看護の基本を教授する。			
<b>授業の概要</b> 具体的内容は、子どもの権利、小児医療・小児看護学の変遷、小児看護の特徴と理念、小児保健の動向、子どもの成長・発達、子どもの栄養、乳児期から思春期に至る子どもの成長・発達と養育及び看護、家族の特徴、子どもの生活環境や発達に関連した健康問題や課題などである。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回：小児看護の対象、小児看護の目標や役割について説明できる。子ども観の変遷、小児医療・小児看護の変遷を重ねながら、小児看護の課題について説明できる。 子どもの特徴、子どもと家族・社会、子どもと医療、小児看護の目標、小児看護の役割、諸外国の児童観・小児医療の変遷、わが国の児童観・育児観の変遷、わが国の小児医療の変遷、小児看護の変遷、小児看護の課題 第2回：子どものニーズと倫理的課題、子どもの権利条約について概説し、小児医療における子どもの権利をふまえた倫理的配慮について考えられる。 看護と倫理、母子看護に関する倫理の特徴、看護師の倫理的責任、子どものニーズと倫理的課題、子どもの健康・権利、医療現場で起こりやすい問題点と倫理 第3回：子どもと家族を取り巻く社会環境、母子保健施策、子どもに関する法律について説明できる。 子どもを取り巻く社会環境（日本の総人口、年齢3区分別人口、出生数、合計特殊出生率、出生と母親の年齢、世帯構造、周産期死亡、乳児死亡、小児死亡、それらの国際比較）、母子保健施策、児童福祉法、母子保健法、健やか親子21、次世代育成支援対策、児童虐待防止などに関する法律、学校保健 第4回：代表的な発達理論・親子関係論・家族理論について理解し、子どもを取り巻く環境や親・家族の役割と影響について説明できる。 発達段階と発達課題、セルフケア理論、発達理論（エリクソン自我発達理論・ピアジェ認知発達理論）、親子関係論（ボウルビーの愛着理論、マラーの分離固体化理論、家族理論） 第5回：成長発達の一般的原则、成長発達に影響する要因について説明できる。 子どもの形態的・機能的成長について説明できる。新生児期の形態的特徴、身体生理の特徴について説明できる。 形態的成長・心理社会的発達の評価方法について説明できる。成長発達とは、成長・発達の進み方、成長発達に影響する因子、形態的成長発達・生理機能の発達（呼吸、循環、体温、消化器、体液生理、血液、睡眠、免疫、神経系・反射、感覚）、身体発育の評価、心理社			

会的発達の評価、形態的特徴、新生児の適応（呼吸、循環、体温、消化器、体液生理、黄疸、血液、免疫、神経系）

第6回：乳児期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能について説明できる。

形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能（姿勢保持と移動・手先の微細運動）、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能

第7回：新生児・乳児期の特徴をふまえた日常生活援助が説明できる。

排泄の世話、食事(授乳、離乳食)の世話、衣服の世話、睡眠の世話、環境の調整、清潔の世話  
遊びの支援、SIDSとその予防、育児支援

第8回：幼児期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、基本的生活習慣の獲得について説明できる。

形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能（姿勢と粗大運動・手先の運動）、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能（愛着形成と分離不安、自立性・自発性、感情の分化、子ども同士の関係と集団生活、遊びの発達）、基本的生活習慣の獲得（食行動、排泄行動、睡眠、衣服の着脱、清潔行動）

第9回：幼児期の特徴をふまえた日常生活援助が説明できる。

排泄のメカニズム、排泄行動の自立、排泄の世話、睡眠覚醒リズム、睡眠の世話

第10回：幼児期の特徴をふまえた日常生活援助が説明できる。

衣服の着脱の自立、衣服の世話、清潔行動の自立、清潔の世話、遊びと運動の支援、予防接種、生活習慣の改善、育児支援、事故防止

第11回：学童期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、感覚・運動機能、知的機能、日常生活、社会機能について説明できる。

形態的特徴、身体生理の特徴、感覚・運動機能、知的発達、情緒発達、日常生活、社会機能、学童期によく見られる健康問題、子どもを取り巻く諸環境

第12回：学童期の特徴と社会性や社会問題について知り、日常生活援助について説明できる。

生活・睡眠時間、遊び・活動、食生活、社会生活、社会性の発達、不適応行動・症状、子どもを取り巻く諸環境、学校生活への適応、学習と遊び、生活習慣病の予防、疾病予防、性教育

第13回：思春期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、知的機能、情緒的発達、自我発達、社会性の発達、性的傾向、生活の特徴について説明できる思春期・青年期の特徴、社会性、心の問題、社会的問題について知り、日常生活援助について説明できる。

形態的特徴、生理的特徴、知的発達、情緒的発達、自我発達、社会性の発達、性的傾向、生活の特徴、思春期によく見られる健康問題、思春期・青年期の生活の特徴、心の問題、飲酒・喫煙、性に関する健康問題、反社会的・逸脱行動、思春期の看護

第14回：子どもの栄養の意義、発達段階ごとの栄養の特徴と食生活への支援の必要性について説明できる。

子どもにとっての栄養の意義、子どもの栄養の特徴、子どもの消化・吸収機能、健康増進対策、食事摂取基準、発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護（乳児期の栄養、幼児期の栄養、学童・思春期の栄養）

第15回：子どもと家族を取り巻く健康問題について、その現状と子どもと家族への支援のあり方について考えられる。

乳児期から思春期までの健康問題について考える。虐待、かぎっ子、塾・お稽古事、テレビ・テレビゲーム・インターネット、アレルギー、自殺、いじめ、暴力行為、不登校、引きこもり、家庭内暴力、飲酒・喫煙、反社会的・逸脱行動（非行、薬物乱用・性の逸脱行動）

定期試験

テキスト

- ・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院
- ・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門23小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院

参考書・参考資料等

- ・中野綾美他：ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護，メディカ出版
- ・松尾宣武他：新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論、小児保健、メヂカルフレンド社
- ・服部祥子：生涯人間発達論、医学書院
- ・厚生統計協会：国民衛生の動向
- ・KTC中央出版：日本子ども資料年鑑
- ・二宮啓子他：小児看護学概論、南江堂
- ・筒井真優美：小児看護学、日総研
- ・岡堂哲雄：小児ケアのための発達臨床心理、ヘルス出版

学生に対する評価

- ①筆記試験 70%、 ②レポート 30%

授業科目名： 小児臨床看護学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉田美幸 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 子どもの健康障害が成長発達やその後の人間形成にも影響を及ぼすこと、また家族にも影響することから、健康状態、発達状況に応じた子どもと家族のセルフケア能力の育成や現状を悪化させないためのリハビリテーション看護の方法について教授する。			
<b>授業の概要</b> 具体的内容は、疾病・障害を持つ子どもと家族の看護、子どもの疾病の経過と看護、生活制限のある子どもと家族の看護、疾病の症状を示す子どもへの看護、入院・外来・在宅における看護、NIC・GCUの看護、災害時の看護、子どもの虐待とその看護である。講義が中心であるが、実験実習の内容も含める。			
<b>授業計画</b> 第1回：小児の先天異常、新生児疾患のおおよそを説明できる。 先天異常、新生児の疾患 第2回：主な小児の代謝性疾患、内分泌疾患について説明できる。 代謝性疾患、内分泌疾患 第3回：主な小児の免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症について説明できる。 免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症 第4回：主な小児の細菌感染症、呼吸器疾患について説明できる。 細菌感染症、呼吸器疾患 第5回：主な小児の循環器疾患、消化器疾患について説明できる。 循環器疾患、消化器疾患 第6回：主な小児の血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患について説明できる。 血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患 第7回：主な小児の神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患について説明できる。 神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患 第8回：主な小児の耳鼻咽喉疾患、精神疾患について説明できる。小児の事故、虐待を考える。 耳鼻咽喉疾患、精神疾患、事故、外傷、小児の虐待、小児の救急処置 第9回：疾病・障害を持つ小児と家族看護について説明できる。 疾病・障害の受け止め・理解、疾病・治療に伴うストレス、ストレスに対する反応・対処、健康問題の受容過程、家族の適応、健康問題受容に影響する因子、療育上の負担、治療における自己決定の促進、発達段階の即したセルフケアの促進、発達段階に応じた支援、親の支援 第10回：急性期および周手術期にある子どもと家族の看護について説明できる。 急性期の特徴、急性期の小児の反応、家族の反応、安全の確保、苦痛の緩和、家族の看護 急性期の特徴、小児期の手術の特徴、緊急手術・計画手術、手術を受ける小児の反応、手術を受ける小児の家族の反応、手術の決定と承諾、術前オリエンテーション、プレパレーション、術前のアセスメント、術後急性期の看護、事故防止、全身状態の観察、水分出納管理、術後合併症予防			

第1 1回：慢性期にある小児と家族の看護について説明できる。

小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性期の小児と家族の生活、健康管理支援、小児への教育・心理的支援、医療・福祉・教育の連携、家族への援助、成長の各段階における問題点、援助の方法、キャリアオーバー、同胞への援助

第1 2回：終末期の小児と家族の看護について説明できる。

終末期の特徴、生命・死のとらえ方、デスエデュケーション、終末期にある小児の看護、家族の看護、告知・同胞への配慮、小児を亡くした家族の看護

第1 3回：症状を示す子どもの看護について説明できる。①

子どもの一般状態、子供の痛みの受け止め方・表現方法、痛みの客観評価、痛みに対しての看護、呼吸困難の原因、呼吸困難を伴う子どもの看護、チアノーゼの原因、チアノーゼを伴う子どもの看護、ショックの原因、ショックを伴う子どもの看護、発熱の原因、発熱に伴う主な症状、発熱を伴う小児の看護、発疹の原因、発疹を伴う小児の看護

第1 4回：症状を示す子どもの看護について説明できる。②

嘔吐の原因、嘔吐を伴う小児の看護、下痢の発生機序による分類、急性下痢症と慢性下痢症の代表的疾患、便秘の原因、便秘を伴う小児の看護、脱水の原因、脱水の症状、脱水を伴う小児の看護、浮腫の原因と分類、浮腫の症状、浮腫を伴う小児の看護、止血機序、止血機序の異常と出血症状の特徴、出血傾向に関連する検査データ、出血を伴う小児の看護、貧血の原因、貧血を伴う小児の看護、けいれんの原因、けいれんの種類、けいれんを伴う小児の看護、意識障害の分類、意識障害の原因、意識障害を伴う小児の看護

第1 5回：生活制限のある子どもと家族の看護が説明できる。

隔離中・活動制限・食事制限のある子どもと家族の看護、外来の環境と看護の役割、外来を受診する小児と家族の特徴と看護、低出生体重児の看護の役割、低出生体重児の環境、高ビリルビン血症の小児の看護（出生前看護、出生後の看護、光線療法中の看護、交換輸血実施中の看護、家族への看護）、新生児仮死で出生した小児への看護（出生前の看護、出生直後の看護、NICU・GCU入院後の看護、家族への看護）、超低出生児の看護（NICU・GUU入院中の看護、家族への看護、退院後のフォローアップ）

定期試験

テキスト

・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院

・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門23小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院

参考書・参考資料等

・中野綾美他：ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護，メディカ出版

・中野綾美他：ナーシング・グラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護，メディカ出版

・二宮啓子他：小児看護学概論、南江堂

・筒井真優美：小児看護学、日総研

・松尾宣武他：新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論、小児保健、メヂカルフレンド社

・松尾宣武他：新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護、メヂカルフレンド社

・白石裕子：救急外来における子どもの看護と家族ケア、中山書店

- ・国立成育医療センター看護手順委員会編：小児&周産期の疾患とケア、中山書店
- ・岡田洋子他：小児看護学・小児の主要症状とケア技術、医歯薬出版株式会社
- ・鴨下重彦：イラスト小児対象ケア、文光堂
- ・及川郁子：子どもの外来看護、へるす出版
- ・小児のメンタルヘルス、及川郁子 中山書店

学生に対する評価

- 1) 松田 筆記試験 100%
- 2) 荒木 筆記試験 80% 課題レポート 20%

授業科目名： 小児看護学実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田美幸 担当形態：単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 健康な子どもおよび治療を必要とする子どもとその家族の成長発達や健康状態、生活状況、セルフケア能力の理解、それに応じた看護実践の基礎的能力と態度を育成できるよう修得する。子どもや家族との関わりにおいては、子どもと家族の気持ちの尊重、倫理的配慮、セルフケア能力に合わせた自立支援、現状を悪化させないためのリハビリテーション看護の実際について修得する。また、子どもと家族を取り巻く他領域の専門家への働きかけや調整の重要性が理解でき、医療チームにおける看護の役割について修得する。			
<b>授業の概要</b> 具体的内容は保育所、小児病棟と小児科外来における子どもとその家族への日常生活援助、環境調整、健康増進と疾病の回復への援助、成長発達の促進などである。			
<b>授業計画</b> 看護の実習は対象をホリスティックに捉え、対象者の状況にあわせて、ケアしていくため、毎回、教授内容を区切って計画することは難しく、以下のように計画する。			
<b>1回～12回：保育園実習</b> 健康な子どもの成長発達、生活状況を理解し、自立の程度にあわせた日常生活の援助が指導のもとにできる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの成長発達、生活状況、健康状態を把握する。</li> <li>2) 子どものセルフケア能力、基本的な生活習慣の自立の程度にあわせた日常生活の援助ができる。</li> <li>3) 子どもの発達段階に合わせた遊びの援助、事故防止への援助ができる。</li> <li>4) 子どもの特性を踏まえたコミュニケーション、子どもの意思を尊重した援助ができる。</li> <li>5) 子どもの言動、子どもに実施した関わりや保育士の関わりを記述し、それを意味づけして説明できる。</li> </ol>			
<b>13回～17回：小児科外来実習</b> 健康な子どもおよび治療を必要とする子どもに対する健康レベルに応じた援助を指導のもとで実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 来院の理由、症状の経過、来院するまでの過程でのケア状況の情報収集、症状の観察を通して病態の把握と緊急度の判断の仕方を学ぶ。</li> <li>2) 診察時、検査・処置時の介助の方法を理解し、苦痛や恐怖心を与えない援助の方法を学ぶ。</li> <li>3) スタンダードプリコーションの実施と、感染症を持つ子どもや疑いのある子どもへの隔離の実際について学ぶ。</li> <li>4) 予防接種の勧奨や、感染予防、体調不良時の家庭での対応などに関する健康教育の実際について学ぶ。</li> <li>5) 医師・看護師が行っている慢性疾患の学童期・思春期の子どもに対する疾患や症状のコントロールの方法について、学校生活との調整や、子どものセルフケア確立に向けての親から子どもへのセルフケア主体の移行に向けた指導の実際を学ぶ。</li> </ol>			
<b>18回～42回：小児病棟実習</b> 健康障害のある乳児・幼児・学童・思春期（18歳以下）の子どもを一人受け持ち、アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の看護過程を通して看護を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 18回～20回：子どもの疾病・病態生理の理解と、治療処置が子どもに及ぼす影響を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受け持ち患児の疾病の病態生理や検査データから、障害された部位、症状、程度を説明できる。</li> <li>(2) 検査・処置が子どもの心身に及ぼす影響について説明できる。</li> </ol> </li> <li>2) 21回～22回：子どもの入院生活を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの健康障害および治療により規制された子どもや家族の生活状態、セルフケアの状態を説明できる。</li> </ol> </li> <li>3) 23回～25回：子どもと家族への看護計画を立案できる。</li> </ol>			

(1) 子どもと家族の看護問題を明らかにし、健康レベルに応じた看護目標の設定、看護計画の立案ができる。

4) 26回～42回：看護計画に基づいた看護の実践およびその評価ができる。

(1) 看護計画に基づいて子どもと家族へのケア実践ができる。

(2) 子どもの特性を踏まえた観察ができる。

(3) 子どもの自立の程度や発達段階に応じてセルフケアの維持向上を目指した日常生活の援助、リハビリテーションへの援助ができる。

(4) 子どもの発達や健康レベルに応じた遊びや学習の援助ができる。

(5) 子どもの安全を考慮し、事故防止、感染予防の援助ができる。

(6) 他領域の専門家と協力する重要性を認識でき、看護の調整的な機能を学ぶ。

(7) 援助の際には、子どもと家族の気持を尊重し、倫理的に配慮した援助を実践できる。

(8) 実施した看護を評価し、必要時再アセスメント、計画の追加・修正ができる。

43回～45回：実習過程を振り返り、実践の意味づけと自己の課題を明らかにできる。

1) 実習目標に沿って実習を振り返り、看護に対する意味づけや自己の省察をする。

2) 実習の学びをカンファレンスで発表し、グループでの意見交換を通して子どもへの看護について深める。

#### テキスト

・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院

・奈良間美保 他：系統看護学講座 専門23 小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院

・草柳浩子・岩瀬貴美子：やさしくわかる小児看護技術第2版、ナツメ社

#### 参考書・参考資料等

適宜紹介します。

#### 学生に対する評価

実習目標の到達度（カンファレンスの出席、記録内容、出席時間による総合評価）100%